

## フィンドレー大学への協定留学 月例報告書 (9月分)

静岡文化芸術大学 デザイン学部 デザイン学科 3年 桑原大樹

私は今、それなりに充実した留学生活を送っている。夕食は毎日アメリカ人の友人と摂っているし、週末は色々お出かけしたりしている。オーストリアから来たマッチョとジムにも行くし、アルティメットのクラブに入ったので週一で有酸素運動もしている。アルティのあとはピザを食べながら映画を観るのが恒例だ。空いた時間はYouTubeだ。見るのではなく制作している。

しかし、逆に言えばずっとそんな感じだ。毎日とても楽しくはあるのだが、いざ報告書を書こうとすると書くことがない。日本の大学に通っていた時も毎日とても楽しかったが、それを毎月A4で2枚提出せよと言われても困ってしまう。

ということで今回は、少しジェネラルな話をしようと思う。ルー大柴みたいになってしまったが、日本語で適当な語彙が思い浮かばなかっただけだ。今になって「全体的」というピッタリな言葉が浮かんできた。今人生で初めて日本語の中に英語の語彙を入れたくなり、エストニア帰りでツイッターのプロフィールにわざわざ「英語が話せます」と書いていた高スペックの後輩が言っていたことが少し分かった気がする。ちなみに彼はイケメンで、ギターが弾けて、歌が上手い。芸文1年のくせにデザイン2年の授業を受けて、多分「興味深い」とか言ってたと思う。

さて、今回の主題は、「アメリカ生活において立ちはだかる壁」である。遠い異国の地において今私の目の前にいくつもの壁が立ちはだかっていること自体は、読者の皆様にも想像に難くないだろう。アメリカ生活で1番の壁になるのは何だろうか。当然、言語である、と言いたいところだが、全く持ってそんなことはない。私が英語を未習得であるがゆえに生じる不具合はたくさんあるが、ぶっちゃけ何とかなる。文芸大に入るためにセンター試験を勉強して習得した英語力に、分からない単語をDeepLで補完すれば、とても苦労するが生きてはゆける。壁なんてシガンシナ区のやつくらいの厚さでしかない。ベルトルトくんがちょこっと蹴ったら崩壊してしまう。その先にはさらに分厚い壁があるのだ。何言ってんだこいつ、と思った方は、読み飛ばしていただいて構わない。それでも成立するように文章を構成している。

まずは食事についての話をしよう。当然、アメリカと日本では食べ物が全く違う。私は学生食堂で三食摂っているのだが、2か月目にしてこれがなかなかキツイ。主食はハンバーガーかサンドイッチが基本だ。これらは普通においしいが、飽きる。体にもあまり良くない。たまに米も出るが、日本人の中でも特に米にうるさい新潟出身の私には、とても食べられたものではない。サラダは、まあ日本と変わらない。そして、その他大勢だ。その他大勢は大勢すぎて具体的には述べられないが、日本でもどこかで食べたことのあるような見た目と匂いのものが陳列されていて、それでいていざ食べてみると少し変な味がする。ものすごく

惜しいのだが、何か未知のスパイスが加わっているのだ。もちろん美味しいものも出るが、総じて油っぽく、太りそうなものばかりだ。先日「学生レストランフェア」というイベントがあって、大学が用意してくれた夕食をみんなで食べたことがあるのだが、その時に出たメニューはハンバーガー、フライドポテト、ピザ、マカロニ、もちチーズ的な何か、であった。これはバイト先でのストレスに限界を迎えた私が Uber Eats で爆食いするときのメニューと大差ない。少し大げさだが、毎日こんな感じだ。しかし、食べ物の問題はどうすることもできない。アジアマーケットは歩いて行くには遠すぎるし、高価である。それに、3食付きのプランに支払ってしまった私にとって自炊をするのはもったいないことだし、仮にやったとしても一時の気休めに過ぎず、すぐにまたアメリカの食生活に戻ることになる。今私が人の金で食べたいものは断じて焼肉なんかではない。どう考えても米とみそ汁だ。



次に、設備の話だ。特に風呂について話をすると、アメリカではユニットバスが普通であるから、湯船につかることができない。これは私にとって、結構深刻な話である。どんなに寝ても疲れが取れないのである。シャワーヘッドも固定なので、体を流すのに少し苦勞する。一番の問題は、排水口に髪の毛をガードするザルみたいなアレがついていないことだ。先日シャワーを浴びようと思ったら、髪の毛で排水口が詰まってお湯がたまってしまっていた。ハウスキーパーを呼んでピンセットを排水口の奥に突っ込み、やっとの思いで詰まりの原因になった塊を取り出すと、それは黒髪で構成されたダークマターであった。私とそのルームメイトの高岡君は、金髪か茶髪に青い目の爽やかな白人学生 5 名と、カールした短いヘアスタイルが魅力的なマッチョの黒人学生 1 名という、女の子なら鼻血が出てしまいそうなメンバーとシェアハウスをしているので、その黒髪ダークマターの生みの親が一体どここの島国からやってきたどんなアジア人なのかは火を見るより明らかであった。アジア人の髪は太くて硬いのだ。「ピンセットを買ってきて、排水口の掃除は俺たちが買って出よう。」つい今ほど決定した話である。トイレ、洗面台、風呂を中心に、日本とはまるで異なった構造を持っているため、設備全体が非常に扱いづらい。特に、掃除のしづらい構造であるのが度し難い。

とまあ、ここまでつらつらと文句を吐き溜めたが、それを踏まえてもやはり留学生活は充実している。私の友人幅は一気に世界に広がったし、彼らとの英語に満ちた日常は間違いなく私の英語力を劇的に向上させている。そこら中にネイティブがいるなんて、こんな贅沢な環境はない。階段を下りればアメリカ人がたむろしている。さっきもポーカーをやりながら「Goly Goly Goly!!」とか言っていた。おそらく私が昨日 YouTuber の「かつー」を見せたせいである。申し訳ないことをしたと思っている。



今回はシンプルに、「アメリカで暮らすと例えばこんなことで苦勞するよ。」という話であった。が、日本では経験できない色物の苦勞、これもまた留学である。